

## 独立行政法人シンポジウム

### 議事概要

○開催日時：令和7年2月10日（月）14:30～17:00

○開催場所：中央合同庁舎第2号館地下2階講堂

○プログラム内容

- ・基調講演

「独立行政法人に期待するマネジメント

～民間企業におけるトップマネジメントの経験から～」

澤田 道隆 独立行政法人評価制度委員会 委員長（花王（株）特別顧問）

- ・パネルディスカッション

テーマ「独立行政法人の将来像を見据えたトップマネジメント」

<パネリスト>

荒瀬 克己 教職員支援機構 理事長

藤原 康弘 医薬品医療機器総合機構 理事長

久間 和生 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長

澤田 道隆 独立行政法人評価制度委員会 委員長

金岡 克己 独立行政法人評価制度委員会 委員（（株）スカイインテック特別参与）

横田 響子 独立行政法人評価制度委員会 専門委員（（株）コラボラボ代表取締役）

<司会>

原田 久 独立行政法人評価制度委員会 委員長代理（立教大学法学部長）

○議事概要

- ・ 独立行政法人が、人口減少など国が抱える社会環境の変化に対応しつつ質の高いサービスを継続的に提供していくために、法人の理事長に求められる将来像を見据えたトップマネジメントについて議論を深めることなどを目的として、「独立行政法人シンポジウム」を開催いたしました。
- ・ 冒頭、長谷川英晴総務大臣政務官から、急激な人口減少、担い手不足が深刻化する中、国民生活の安定と社会経済の健全な発展に極めて重要な役割を果たす独立行政法人が、その能力やリソースを最大限いかすためにもマネジメントが重要であり、本シンポジウムが今後の業務運営に役立つことを期待する旨の挨拶が行われました。
- ・ 基調講演では、独立行政法人評価制度委員会の澤田道隆委員長が、独立行政法人のマネジメントへの期待について、民間企業のトップとしての御経験を踏まえつつ、「独立行政法人評価制度の運用に関する基本的考え方」や令和6年11月に一部改定した「独立行政法

人の業務管理及び内部管理について」による委員会としての考えを説明しました。

- ・ パネルディスカッションでは、「独立行政法人の将来像を見据えたトップマネジメント」をテーマに、パネリストとして、独立行政法人から、教職員支援機構（N I T S）の荒瀬克己理事長、医薬品医療機器総合機構（PMD A）の藤原康弘理事長、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）の久間和生理事長、独立行政法人評価制度委員会から、澤田道隆委員長、金岡克己委員、横田響子専門委員に御登壇いただき、司会の原田久委員長代理の進行のもと、まず各法人から取組事例の紹介が行われました。

N I T Sの荒瀬理事長からは、小規模法人ながら全国108万人もの「教職員の資質の向上」というミッションの達成に向け、職員が、関係者と連携・協働しながら、主体的かつ意欲的に仕事ができるよう、試行錯誤しながらマネジメントに取り組まれている旨を御紹介いただきました。

PMD Aの藤原理事長からは、PMD Aでの仕事を通じて「人々の健康を守る」、「医療などの現場をよりよくする」といった使命や仕事のモットーなどを職員に浸透させるとともに、全職員との面談を通じて組織の課題を把握の上、10年後を見据えた組織目標の設定、ガバナンスの再構築、D Xの推進等に取り組まれてきたこと、それを進める上でのポイントなどについて御紹介いただきました。

農研機構の久間理事長からは、農業・食品版「society 5.0」のスピーディな実現のため、組織目標を提示の上、徹底的な組織改革と各部門の連携強化、農業・食品産業技術と先端技術の融合や農業界、産業界等との連携強化によるイノベーションの創出と社会実装への貢献、戦略的広報による組織のプレゼンス向上、さらに、人材の流動化を目的としたマルチ人材育成プログラムなどに関する取組について御紹介いただきました。

その後、組織変革を進める上での①職員の巻き込み方や主務省とのコミュニケーションのとり方、②法人内部の実情・現状の把握の仕方、③仕事に面白みを感じられる職員の育て方などについて、登壇委員からの質問をきっかけに、活発な意見交換が行われました。

- ・ 最後に、平池栄一行政管理局長から、今後、法人においては、組織として、デジタルトランスフォーメーション（D X）を含めた変革をし続けること、人を育て、必要なリソースを確保していくことが最も重要であること、また、今後も法人の取組の参考となる情報の提供や意見交換の場を設けていきたい旨の閉会挨拶を行いました。

